

出会いは人生を豊かに

「児童も学生も親も大きく成長」

(続報)小学生が夏休みに市内の100kmのコースを歩いた第5回「おのみち100km徒歩の旅」の事業報告会がこのほど開かれ、今年度の全ての行事が終了した。参加した児童もボランティアの学生も、一つのことをやり遂げた達成感と自信に満ちた表情で一連の取り組みを振り返っていた。 [幾野伝]

100km徒歩の旅

100km徒歩の旅は、同実行委員会(柿本和彦実行委員長)の主催、山陽日日新聞社などの後援で、先月6日から4泊5日で尾道市内に設定されたコースを歩いたもの。市内を中心に小学4年から6年の98人が参加し、5月から研修を重ねて本番にのぞんだ尾道大学、広島大学などの学生ボランティア58人、社会人ボランティアなどの支援で参加小学生全員が100kmを完歩した。市公会堂での事業報告会には平谷祐宏市長と平田光行教育長が来賓、児童の家族も出席した。平

谷市長が「子供達はひと回り大きな心に成長したと思う。古里尾道を大切に、未来を支える子供達の成長を市民と行政の協働で取り組んでいきたい」とあいさつ。学生ボランティアが生活、給水、救護などのグループごとに登壇し、写真、柿本実行委員長から表彰状を受け取った。それぞれ代表があいさつ、団長補佐の一人重廣孝さん(広島大学)が「出会いは人生を豊かにし、別れは人を強くすると、小学生の時に先生から教えてもらった。この3ヶ月で得たものは、自分の中でずっと残っていくはず。人や場面、言葉などとの

出会いを大切に成長していきたい」と述べた。小学生時代に完歩、今回ボランティア研修生として参加した中学生の原口大河君(高西1年)、嶺下亮君(久保1年)、岩崎里穂さん(御調2年)、村上由香さん(栗原2年)の4人にも感謝状が手渡された。保護者を代表して4年連続で参加した日比崎小6年、岡田真奈さんの母親が「5日間子供と離れて心にぽっかり穴が空いた。柿本実行委員長は活動報告集の冒頭で成果と成長に触れながら、これか

たようで娘の存在の大きさを家族の大切さを改めて知った。自分の力に自信と誇りを持って、この体験を杖やバネにして人生を歩いてほしい。長い目で子供を信じたい」とあいさつした。5日間のようすをとらえたスライド写真を映し出し、全員で徒歩の旅の苦勞と喜びを振り返った。

柿本実行委員長は活動報告集の冒頭で成果と成長に触れながら、これか

らも、ものの観方・考え方、自己を知る大切さ、夢への挑戦、問題の関わり方、感謝の念、使命感、アイデンティティなどの人間力を養うため、現代人としてどこかに置き忘れ

てきたものを探すため、人間として本来持ち合わせている生きる力を育むため、将来の日本のために皆さまと共に「今、ここ」を生きて参りたい」と綴っている。

